銀行名	紀陽銀行
タイトル	BCP（災害時等における事業継続計画）策定支援
取組み内容	<p>取組みに至った経緯</p> <p>A社は化学製品製造・販売会社。 平成26年11月、当行はBCP策定が事業力向上のために必要な取組みであると提案し、関連会社の紀陽リース・キャピタル株が実施する大規模地震対応模擬訓練（大地震による緊急事対応を想定したシミュレーション訓練）に参加いただいた。</p> <p>取組みの具体的内容</p> <p>紀陽リース・キャピタル株はA社に対し、役員・従業員を対象にした社内研修や部長クラスを対象にした大規模災害対応模擬訓練を実施し、BCP策定支援に至った。BCPが組織に定着するためには継続した訓練を実施することが必要であり、紀陽リース・キャピタル株は、今後もBCP定着に向けたコンサルティングを継続することとなっている。</p> <p>なお、紀陽リース・キャピタル株は地域と連携した域内のBCPの普及活動・推進活動等が評価され、特定非営利活動法人事業継続推進機構（BCAO）が主催するBCAOアワード2015において、「優秀実践賞」を受賞。</p>

銀行名	紀陽銀行
タイトル	ベンチャー企業の創業支援
取組み内容	<p>取組みに至った経緯</p> <p>C社は物体解析技術を有するベンチャー企業。 電子部品・自動車部品等の形状計測等で応用が期待されるものの、工場ラインへの導入などの大規模な受注には至っていなかった。経営者は技術開発のスペシャリストであり、経営管理面・営業面で課題があるほか、資金調達手段の多様化ニーズがあることを聴取した。</p> <p>取組みの具体的内容</p> <p>営業店、本部専門部署、当行関連会社の紀陽リース・キャピタル株の各担当者が継続訪問し、事業内容等についてディスカッションを実施。 監査法人などが事業化に向け伴走支援する新事業・研究開発等支援事業「平成27年度紀陽イノベーションサポートプログラム」を紹介。C社は本プログラムの外部有識者で構成する評価委員会で最も高い評価を受け採択された（申込み企業25社、採択企業9社）。</p> <p>平成28年3月、当行が研究奨励金を支給し、長期にわたる伴走支援を開始。 また、技術系ベンチャーキャピタルからの出資受入の際にもアドバイスをを行い、ハンズオンサポートを受けることの出来るベンチャーキャピタルの出資につなげた。</p>

銀行名	紀陽銀行
タイトル	後継者不在企業のM & A
取組み内容	<p>取組みに至った経緯</p> <p>D社は法面保護工事を営む。 法面保護工事技術に定評があり、優位性はあるものの、親族内に後継者が不在で、社内にも適した人材が育っていない状況であった。</p> <p>取組みの具体的内容</p> <p>当行が主催する事業承継セミナーを案内。営業店と本部専門部署が連携し、訪問を重ねることでM & Aを具体的に進めることになった。</p> <p>21年1月に提携仲介契約を締結し、企業価値評価や候補先選定等M & A業務に着手。候補先への提案は約40社にのぼり、その中から近畿圏内に本社を置く建設機械等リース会社(以下、X社)と交渉を進め、27年8月に最終契約を締結。D社にとって、X社とのM & Aにより、従業員20名の雇用確保、取引先との関係維持、借入金の連帯保証の解除、創業者利益の実現につながった。</p> <p>一方、X社にとっても、自社の建設機械を活用し、営業エリア内の法面保護工事の受注に対応することができることになり、事業拡大につながった。</p>

銀行名	紀陽銀行
タイトル	海外進出支援（シンガポール進出）
取組み内容	<p>取組みに至った経緯</p> <p>E社は工場向け産業排水浄化装置や車両洗浄装置の製造・販売会社。東南アジアでは工場排水に対する環境対策が未整備であり、排水処理装置の需要はあるとの考えから海外進出を検討していたが、海外進出の経験がなく情報収集を行うだけであった。</p> <p>取組みの具体的内容</p> <p>27年9月、当行が取得したシンガポール企業の車両洗浄装置の入札案件情報をE社に案内。E社は日本国内の鉄道会社に車両洗浄装置の納品実績があることより、当行を通じてシンガポール企業との商談を開始。</p> <p>平成28年1月、提携コンサル会社の協力で、シンガポール企業に日本国内の鉄道車両洗浄装置の現地視察を実施し商談成立。</p> <p>また、当行提携先の国際物流会社もE社に紹介し取引に至った。</p>

行名	紀陽銀行
タイトル	経営改善、事業再生が必要な取引先サポートによるABLを活用した資金供給
	<p>取組みに至った経緯</p> <p>F社はホワイトボードや木工機などの製造を営んでおり、最終ユーザーは公共機関が大部分を占めている。そのため受注が春先に集中する傾向があり、年間を通じての資金繰りが不安定であるのが課題であった。当行は過去より経営改善が必要な先として経営改善計画の策定支援や、仕入資金を約定弁済付手貸や長期資金にて対応を行っていたが、より資金繰りを安定させF社の経営改善計画達成に資するべく、在庫を担保取得し短期継続融資を実行した。手元資金が充実したことで、F社は受注予測に対応した仕入・製造をよりスムーズかつ確実に行うことができるようになった。</p> <p>また、当行は従来からの資金繰り表や試算表での業況把握に加え、在庫状況を継続的に確認出来るようになったため、業績モニタリングの精度向上に繋がった。</p> <p>取組みの具体的な内容</p> <p>G社は当地にて防虫剤、殺虫剤、人体用忌避剤の製造を営む企業。過去より経営改善が必要な先とし経営改善計画を策定、必要運転資金について長期資金にて対応していた。</p> <p>今般メイン取引先からの受注減少が続き、業況低迷。経営改善計画との乖離が発生していた中、修正計画の策定に伴い事業DDを実施。事業DDを行う中で正常な運転資金額が明確となった。また当該事業について今後の事業性も確認できたため、今後事業を安定的に経営する為、ABLを取組（在庫担保）し、借入金の組み換えを実施した。本件取組によりG社は資金繰りの改善が図れ、事業に投下できる資金の確保が可能となり、経営改善計画の実現可能性がより高まった。また当行はG社の業績について、試算表だけでなく在庫状況の推移からも確認することが可能となり、業績モニタリングの精度向上に繋がった。</p>

銀行名	紀陽銀行
タイトル	「熊野古道の参詣道環境保全活動」について
取組み内容	<p>和歌山県が誇る「世界遺産」熊野古道は、雨や台風の被害にたびたび見舞われています。熊野古道参詣道の傷みを修復し、その価値を守り次世代へ伝えていくため、和歌山県が行っている「10万人の参詣道環境保全活動」に平成24年より参画し、平成28年6月は4回目の実施となった（110名が参加）。</p> <p>一般的に世界遺産（登録資産）の修復は、現状変更等の様々な申請を行ったうえで、専門家が修復作業を行うもので、基本的に一般の者が修復に携わることはない。しかし、熊野古道の参詣道環境保全活動では、登録資産が『道』であることから、市町村の文化財担当者の立会いのもと、世界遺産センター職員のレクチャー等を受けながら、雨水により土が削りとられた地面に土入れ作業を行うものであり、世界遺産の修復に直接関わるという貴重な体験ができる。</p>